

表3 家庭注射の利点 (アンケートによる)

情緒的改善	21/21
疼痛の回復が早い	14/21
欠席日数の減少	14/15 (変化なし 1例)
運動障害の改善	14/21
不安有	4/21

血友病A 血尿患者に対する高単位濃縮第Ⅷ因子製剤投与効果について

奈良県立医科大学小児科

福井 弘
高瀬 俊夫
市川 正裕
藤村 吉博
吉岡 章
岩垣 克己

目的：我々は血友病A患者の血尿に対し、従来 cryoprecipitate 剤で止血をはかってきたが、しばしば出血が遷延し、又反復輸注により高 Fibrinogen 血漿を伴い無尿に陥った死亡例も経験した。今回、重症血友病A患者6例に濃縮第Ⅷ因子製剤 41~60 U/kg 1回輸注しⅧ：Cを100%前後に上昇させた際の臨床及び止血効果を観察した。

方法：第Ⅷ因子活性 (Ⅷ：C)：Hardisty 1 段法、第Ⅷ因子関連抗原 (ⅧR：AG)：Laurell 法、von Willebrand 因子活性 (ⅧR：WF)：Alain-Brinkhous の変法、Fibrinogen 量：TGメーター法

成績：(i)、4例に高力価濃縮第Ⅷ因子剤 (41~53 U/kg) を1回注入した。全例に注入後4~24時間以内に肉眼的血尿は消失した。Ⅷ：Cは注入30分後80~130%と最高値に達し、24時間9~20%、48時間1~12%と漸次下降した。Fibrinogen値は30分後最高値278~480 mg/dl となったが、投与前に比して63~180 mg/dl と軽度の上昇であった。

しかし1回投与を行った4例中2例に72時間後再出血あり cryoprecipitate 剤を投与した。

(ii)、2例に初回高単位投与した48時間後に再度高単位投与を試みた。初回投与後数時間で血尿は消失し、以後数週間再出血はなかった。この際再投与による Fibrinogen 値は430~480 mg/dl と軽度であった。

結論：高単位1回投与法は患者への負担が少なく且つ、高血圧、高 Fibrinogen 血漿の心配もな

く、24時間以内の止血効果が得られた。しかし2例に72時間後の再出血を見た為、他の2例に初回投与48時間後に再度同投与方法を行ったが再出血は現われなかった。

高単位濃縮第Ⅷ因子剤「Hemofil H」を用いた 血友病A抜歯時の止血管理

国立大阪病院 吉 岡 慶一郎
木 下 清 二
三 村 良 明
高 宮 脩
稲 葉 修

血友病Aの抜歯に際して、従来われわれはCryoprecipitateによる補充療法をおこない、第Ⅷ因子活性(FⅧ-C)を15~35%に上昇させ、術後48時間、8~12時間毎に注入を継続する方式により止血管理をおこなってきた。今回Hyland社の高単位濃縮剤Hemofil H(1260~1500U/30ml)を使用し、1回注入によりFⅧ-Cを100%近くに上昇させて抜歯する方式を検討した。

症例：抜歯の目的で当科を受診した血友病A5例(FⅧ-C 1%<4例、6%1例)に術前1時間に45.7~63.0U/kgを1回静注し、FⅧ-C、A-PTT、フィブリノゲン定量による凝血学的補正効果および臨床効果につき検討した。

凝血学的効果：Hemofil 輸注30分後にFⅧ-Cは80~123%に上昇し、A-PTTの明らかな短縮を認めた(図1)。FⅧ-Cの $\frac{\text{実測値}}{\text{期待値}}$ は0.80~0.96で充分の補正効果がみられた(図2)。各症例について注入後の消長をみると、注入後約8時間ではほぼ半減し、24時間後 $\frac{1}{5}$ 以下に減少した。図3、4はその代表例である。

臨床効果：乳歯では数本同時に抜歯しても術後出血はみられなかった。成人の永久歯4~5本同時抜歯した場合、術後2~5日に抜歯部に小血腫形成、出血がみられたが、再輸注により容易に止血し、その後異常出血をみなかった。

副作用：5例中1例に注入後血清肝炎を発症し、GOT、GPTの著しい上昇、HBs抗体の陽性化がみられた。その他認むべき副作用はなかった。

考察および結論：本剤はmlあたり極めて高単位のFⅧ-Cを含有し、少量輸注により100%の血漿レベルを得ることができ、フィブリノゲン量の上昇もわずかで、手術時の止血管理、大出血時の補充療法は有用と考えられる。

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

目的:我々は血友病 A 患者の血尿に対し、従来 cryoprecipitate 剤で止血をはかってきたが、しばしば出血が遷延し、又反復輸注により高 Fibrinogen 血漿を伴い無尿に陥った死亡例も経験した。今回、重症血友病 A 患者 6 例に濃縮第 Ⅷ 因子製剤 41~60U/kg 1 回輸注し、FIB 値を 100%前後に上昇させた際の臨床及び止血効果を観察した。